

生月まち協 だより

第40号

令和2年8月15日発行



生月地区まちづくり
運営協議会

TEL/FAX 0950-29-9080



生月中学校競漕船体験より (記事参照)

まち協活動報告

今年度の活動計画についてご紹介します。
新型コロナウイルス感染症のため中止となる事業もありますが、
今年度も地域の皆様のご協力をいただきながら活動していきたいと思いをます。

役員会

8月5日(水)役員会を行いました。
今年度の部会活動についてや中止になった事業の代替事業案などを協議しました。



各地区よりお知らせ

各区長より令和2年度
敬老会は新型コロナウイルス
感染症予防のため
中止となったと
報告がありましたので
お知らせします

地域づくり部会

- ・通学合宿支援事業(中止)
- ・夏祭り(青年団主催)支援事業(中止)
- ・いきつき勇魚まつり開催事業(中止)
- ・イルミネーション設置支援事業
※今年度新規事業。御崎地区をモデル地区とし今冬イルミネーションを設置します



生活環境部会

- ・区内美化活動
御崎自然遊歩道整備
番岳整備
- ・地区住民集団避難訓練
【開催日】令和2年12月6日(日)
- ・新日本歩く道紀行100選 絶景の道ハイキング
【開催日】令和3年3月14日(日)



健康福祉部会

- ・健康づくり支援及び健康診断受診率向上促進事業
- ・三世代交流グラウンドゴルフ大会開催事業
【開催日】令和2年10月4日(日)
- ・ごみを拾いながら史跡を巡ろうウォーキング開催事業
【開催日】令和2年11月8日(日)
【コース】元触コース
- ・喫茶店きないよ
- ・いきいきサロン等支援事業



産業振興部会

- ・いきつき勇魚まつり開催事業(中止)
- ・フリーマーケット開催事業
- ・かかし品評会開催事業
- ・生月漁港防波堤壁画製作事業



7月20日(月)今年度初の部会を開催しました。部会長・副部会長をご紹介します!!

部会長：山下 昌之 (敬称略)
副部会長：神田 典子

喫茶店 きないよ

～今年度より名称が変更になりました～



7月26日(日) 壱部多目的集会施設において『喫茶店きないよ』を開催しました。この日は約30名の方が参加し、生月の昔の映像を鑑賞したり、ミニゲームを行うなど世代を越えて交流を楽しみました。

次回の『喫茶店きないよ』は諸般の事情により中止します。
今後の開催については決まり次第お知らせします。



生中競漕船体験



7月28日(火)・29日(水)の2日間、館浦漁港において生月中学校2年生が競漕船の体験を行いました。2日目にはレースも行われ、大きな声援が飛び交いました。どのチームも練習の成果が存分に発揮されたすばらしいレースでした。

祇園祭



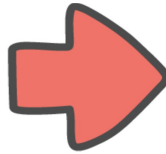
8月4日(火) 住吉神社祇園祭が行われました。コロナウイルス感染症により開催も危ぶまれましたが、例年どおり御神輿の巡業も行われ、いつも以上に疫病退散を祈願しました。早くコロナウイルスが終息し、いつもの生活に戻るよう願います。

コロナに負けるな！～新しい生活様式応援～



水道料金口座振替キャンペーン

令和2年
8月1日



令和3年
1月31日

☆期間中、水道料金の支払いを新規で口座振替にされた方

先着300名に500円のQUOカードをプレゼント！

【注意事項】 ◎期間中の解約・再申請は対象となりません ◎QUOカードは、後日口座登録後に郵送します
◎契約者と口座名義人が違う場合、口座名義人を対象者とします

口座振替は
こんなにお得！



支払いに行く手間が省ける！



支払いの際の接触・密を回避！



払い忘れることもナシ！



通帳に記帳され、確認も楽！

◎お申込みは・・・

水道局、市役所・支所・出張所、金融機関に備え付けの口座振替依頼書を提出ください

※口座の届出印が必要です

【お問合せ先】水道局 0950-22-3838

編集後記

ラジオ体操の帰りにけんかしてけんかし終わるとまだ八時半

『夕暮れの路地裏で友達と遊んでいたころは今よりも一日がずっと長かった。傾いた日差しで影法師が伸びれば、わざと仲良しの影をふみふみしながら、わざと遠回りして帰る。

「かえるが鳴くからかーえろ。」「さよなら三角またきて四角。」あいさつを唄う声もなつかしい。

テレビは夜の8時まで、土曜日だけは9時まで許されたが、ドリフのものまねだけはなぜだか先生に怒られた。

テレビゲームもビデオデッキもなかった。あったのは有り余るほどの時間、何をしても笑っていられたし、悲しい時には素直に泣けた。何かに失敗してもごめん

なさいで許してもらえた甘い時間は、あっという間に過ぎ去ってしまった。いまでも、きれいな夕陽や茜空を見るたびに、こどもの時間を呼び戻されて、ほんのりせつなくなる。』

巻頭の短歌に触れたとき、昔書いた短文を思い出し、押入れの中を引っ掻き回して、やっと、文章をしたためたノートを見つけ出しました。子供のころの時間の流れは悠久で、そのあまりの緩やかさに、時間よ早く過ぎてくれと思っただくらいでした。老齢に差し掛かり、矢のように過ぎていく時間に辟易している今日この頃、子ども時分を思い出し少しセンチになったのでした。

(学)

